

死者の月に

主任司祭 吉池 好高

11月の死者の月を迎えています。今年もこの5日の日曜日には、皆さまからお寄せいただいた亡くなられた方々のお名前の短冊を祭壇に掲げて、ごミサをおささげいたします。また、12日の日曜日には9時半のミサ後、これも恒例になっている府中墓地への墓参を行います。皆様のご参加をお待ちしています。

この11月が死者の月とされているのは、典礼歴において11月1日が諸聖人の祭日、翌日の2日が死者の日とされているからです。さらに11月は典礼歴の最終日曜日の王であるキリストの祭日に向けて、すべてのものの終末について思いを新たにす月でもあります。わたしたちの信仰においては、あらゆるものの終末は、その彼方にわたしたちを待っている永遠のいのちへと開かれています。

わたしたちのこの世の人生の最終目的地はそこにあります。わたしたちが信じている主イエス・キリストは、そこに向けてわたしたちすべての者を導くために、インマヌエルとしてこの世に生を受け、十字架の死と死者の中からの復活への過ぎ越しによって、わたしたちに永遠のいのちへの希望をもたらしてくださいました。十字架の上に死んだイエス・キリストが復活したことを弟子たちが知ったのは、締め切った部屋の中に閉じこもっていた彼らの真ん中に復活したイエスが立って、「あなたがたに平和」と呼びかけてくださったからです。その復活の主遣わされたイエスの弟子たちの宣教によって始まった教会の中で、わたしたちは永遠のいのちを約束する洗礼を受けたのです。この世の生の中にあるわたしたちは、永遠のいのちを保証する洗礼を受けながら、なお、迷いのさ中にあります。

そのようなわたしたちに、先に召されたわたしたちの信仰の先輩方は、永遠のいのちの喜びの中から呼びかけておられます。「あなたがたが今経験していることは、わたしたちもみな経験したことなのだよ。」そのように呼びかけておられるのです。ミサのたびごとに今や永遠のいのちのよろこびの中におられる召された方々とともに、感謝と賛美をささげましょう。ミサは永遠のいのちに結ばれた者たちの、いのちの祭典なのです。